

## とりまとめに当たって（案）

とりまとめに当たり、本検討会としての基本的な姿勢を改めて示すとともに、今後の具体化に向け、留意いただきたい点を整理するものである。朝霞基地跡地の利用と完成が、やがては市民の願いとなり、市民の誇りとなることを心より願ってやまない。

○会長

□□ □□

朝霞基地の利用には、相当の年月を要し、中長期的な継続的取組みが必要とされる。一方で、駅から至近の位置にこれだけのまとまりのある大規模用地を確保することは、朝霞市のみならず、世界都市を目指す東京圏においても、さらにはこの先々においても極めて困難である。

- 1 このため、時代の潮流の変化や時代の要請にもとづき、弾力的かつ的確に対応していく必要がある。
- 2 本とりまとめは、現在という時点での法令・基準、施設立地の可能性や実現性などをもとに行われたものであり、今後の ICT 革命、新たなタイプの施設の登場やニーズ、さらには関連法令の改正、規制緩和、官民の新たな開発タイプの登場などなどの変化にも適切に対応していくことが望まれる。
- 3 また必要に応じ、次の世代の意見等も反映させ、財政上の課題に対応していく必要があり、民間活力の活用や導入、開発利益の還元にも留意していくことが望まれる。
- 4 都市の魅力は、安全性、機能性・機動性、快適性、美しさだけになっているのではない。もはやそれだけでは、市民の誇りとなることも、新たな新名所となることも十分ではない。そこならでは、都市の楽しみ方、季節の楽しみ方、時間の楽しみ方が、さらには暮らしのスタイルが望まれる。本とりまとめの具体化を通し、そのような提唱がなされ、それが朝霞市民の誇りとなり、次の世代に受け継がれていくことを望みたい。
- 5 朝霞基地跡地の利用は、行政、民間によって完成するのではなく、そこに市民の営み、表情、楽しみ、息遣い等が積み重なって初めて魅力や誇りが生まれる。そのためには、ハードな施設のみならず、全体のマネジメント・プロデュースの仕方についても取組みが必要とされる。

以 上